

まきでら長谷寺 未修復仏像一覧(令和2年3月現在)

尊格	仏像由来	修理概要	
仁王像 左右二体	<p>吽(うん)形</p>  <p>左:密迸(ミツシヤク)金剛像 右:那羅延(ナラエン)金剛像</p> <p>身長2.1m、台座0.5m、計2.6m。県内随一、室町期の作と言われ、解体すれば体内より何等かの記録が出て来ると期待されている。</p>	<p>阿(あ)形</p> 	<p>燻蒸、清掃のあと、木材の損傷を止めるため木質を強化。足りない部分を補い、台座は新たに作ります。</p> <p>令和2年4月、仁王門より羽尾の工房に運び出し、施工に取り掛かります。</p> <p>施工期間:4年</p>
千手観音菩薩立像	 <p>立像本体1m。台座と共に1.2m。伝春日恵心作。木彫りで彩色。四十臂の部分、宝冠、仏化など、脱離損傷は多いが千手観音の様相は保ってる。</p>	<p>清掃のあと、塗り直された表面を剥がし、足りない部分を補って、古色彩色を施します。</p> <p>施工期間:1年</p>	
地藏菩薩立像	 <p>立像84cm。台座と共に1m。藤原期の作。香南市指定文化財。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。延命地藏菩薩、手先など欠損のため後補となっている。</p>	<p>燻蒸、清掃のあと、足りない部分を補って、古色彩色を施します。</p> <p>香南市指定文化財のため、修理方針要検討。</p> <p>施工期間:1年</p>	
観音菩薩立像 十一面	 <p>一木造り立像。1.77m、杉材。藤原期の作。両耳、両手、両足先が欠損し損傷多し。宝髻、宝冠、化仏や胸飾、天衣など殆ど失われている。</p>	<p>燻蒸、清掃のあと、木材の損傷を止めるため木質を強化。台座は新たに作り、漆塗りで仕上げます。</p> <p>施工期間:1年</p>	
オソゴエ 地蔵尊	 <p>中尊:久重オソゴエ地蔵堂本尊を移転 台座共に52cm。 脇仏:掌善童子、掌悪童子ともに27cm。 丸厨子、黒塗、金押。</p>	<p>清掃し、剥離防止を施し、不足箇所を補って、古色彩色を施します。</p> <p>施工期間:1年</p>	
菩薩立像 小地藏	 <p>立像48cm。厨子入り</p>	<p>清掃し、表面に剥離止めを施し、不足箇所を補って、古色彩色(光背は漆箔)を施します。</p>	

優先度
高

